

小学校 図画工作

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

① 目標の改善

- ・生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を一層重視した。
- ・育成を目指す資質・能力を、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- ・図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせることを示した。
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指していることを示した。

② 図画工作科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える形や色などの造形的な視点について理解すること など ・感性を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力 など ・感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、自分たちの作品や美術作品などについての自分の見方や感じ方を深め、味わう力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な対象や事象を心に感じ取る感性 ・感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び ・造形的な創造活動に主体的に取り組む態度 ・<u>形や色</u>などにより、生活を楽しく心豊かにする態度 ・<u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

① 改訂のポイント

- ◇表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視し、目標及び内容を改善・充実する。
- ◇造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、目標及び内容を改善・充実する。

②内容の構成（内容項目及び事項）の改善

◇三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、内容構成を改善した。

A表現（１） 発想や構想に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
A表現（２） 技能に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「技能」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「技能」
B鑑賞（１） 鑑賞に関する項目	ア 鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
〔共通事項〕（１）	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」 イ「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」

③見方・考え方について

◇図画工作科における「造形的な見方・考え方」

- ・感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

◇〔共通事項〕を「造形的な視点」を豊かにするために必要な「知識」と「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理

〔共通事項〕（１）	ア 自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること。 ＝「知識」
	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。 ＝「思考力、判断力、表現力等」

深い学びの鍵となるのが
「見方・考え方」です。



④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇指導計画作成上の配慮事項

- ・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。

「主体的な学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かすことのできる学習の充実を図る。 ・自分の活動を確かめたり振り返ったりするような場面を設定し、造形的な創造活動における自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につながるようにする。
「対話的な学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で材料や場所、作品と向き合うなどの自分との対話を大切にしつつ、子どもが自分の「見方・考え方」を働かせて、表したいことや用途、材料や場所の特徴、表し方などについて、お互いの活動や作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実する。 ・教員との対話、子ども同士の対話だけではなく、保護者や地域、社会の人と交流する機会を設定する。
「深い学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な創造活動において、つくりたいことや表したいこと、見たいことなど、子どもが自ら課題を見付けることを重視している学習であることを踏まえる。 ・育成する資質・能力を明確にし、それらの資質・能力を相互に関連して働かせることができる活動を設定する。 ・子どもが自ら学びを深めていくことができるように、「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を重視する。 ・子ども自身が学びの実感をもつことができるように、教員が教える場面と子どもたちが「見方・考え方」を働かせて友だちと共に学び合う場面との関連を考え、授業設定をする。

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領に示された図画工作科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」は作成されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

② 学習指導要領の「2 内容」と「内容のまとめりごとの評価規準」との関係

◇ 図画工作科における内容のまとめり

造形遊び・・・「A表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
 絵や立体、工作・・・「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
 鑑賞・・・「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

<例 第3学年及び4学年「絵や立体、工作」※「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ>

学習指導要領の「2 内容」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	〔共通事項〕(1)ア <u>自分の感覚や行為を通して</u> 、形や色などの感じが分かること。 「A表現」(2)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。	「A表現」(1)イ <u>絵や立体、工作に表す活動を通して</u> 、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。 〔共通事項〕(1)イ <u>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。</u>	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、 <u>該当学年の目標(3)を参考に</u> する。 〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動において共通に必要な資質・能力です。

「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものです。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「知識」は〔共通事項〕(1)ア、「技能」は「A表現」(2)イから作成する。 「技能」の文頭は、内容のまとめりを示すものなので削除する。 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。等 	<ul style="list-style-type: none"> 「A表現」(1)イ、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)イを示す。 「A表現」(1)イの文頭は、内容のまとめりを示すものなので削除する。 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。等 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。 「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする。等

「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したものを、「内容のまとめりごとの評価規準」と呼びます。

内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かって<u>いる</u>。 材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<u>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら</u> 、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて <u>考えている</u> 。	つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。 ※学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、学習評価を行う際の評価規準を作成し、学習評価を授業改善につなげます。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

- ◇本事例は、第2学年において、開いた箱を見て想像したことを絵に表す活動を通して資質・能力の育成を目指す題材の事例である。
- ◇学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、題材の内容や時間のまとまりごとに評価する時期や場面を精選することが重要である。本題材はそれぞれの児童が開いた箱の形や色などから想像して表したいことを見付けることが重要であることから、「思考力、判断力、表現力等（発想や構想）」の育成に重点をおいている。

(1) 題材名「ひらいたはこから」(第2学年)

※内容のまとめり 第1学年及び第2学年「絵や立体、工作」

(「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ)

(2) 題材の目標

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。
- 形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
- 楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(3) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ・カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだす喜びを味わい楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す学習活動に取り組もうとしている。

(4) 材料・用具 空き箱、クレヨン、パスなど

(5) 指導と評価の計画 (2時間)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				備考
		知 技		思 態		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・開いた箱を見て、どのようなことを表したいか想像し、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 	◎ 観察 対話 作品		○		<ul style="list-style-type: none"> ・本題材は、箱の形や色などに着目して発想や構想をすることに重点を置くので、1時間目に「知識」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことなどを友人と伝え合い、さらに発想や構想をする。 ・表し方を工夫して表す。 		◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目は「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて2時間目に「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。 ・「技能」については、2時間目に児童の学習状況を把握し、記録に残す。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。

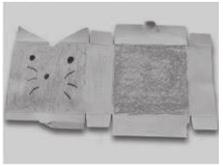
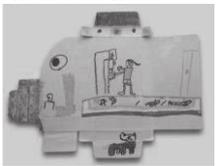
○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

(6) 指導と評価の実際 (2時間)

時間	ねらい・学習活動	評価	
		評価の観点 評価方法等	評価の実際
1	<ul style="list-style-type: none"> 開いた箱から想像して、どのようなことを表したいか考え、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 知 ◎ 観察 対話 作品 思 ○ (発想や構想) 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識」の視点で、形や色などに着目している様子を、観察する、つぶやきを捉えるなどして学習状況を把握し、指導に生かすとともに記録に残した。 「思考・判断・表現 (発想や構想)」の視点で、表したいことを考えて見付けている様子を、観察する、友人との対話を捉えるなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。
			<p style="text-align: center;">【10の視点】⑦学習評価の推進</p> <p style="text-align: center;">学習活動の早い段階での学習状況の把握に努め、「努力を要する」状況にある児童を中心とした指導を優先します。</p>
	<p style="text-align: center;">【10の視点】⑥学び合う活動の充実</p> <p style="text-align: center;">形や色などを楽しみ、周りの友人と関わり合いながら自分の思いをはっきりさせたり、友人に話しながら思いを巡らしたりする等の活動を充実させ、子どもの学びを深めます。</p>		 <p>開いた紙をいろいろな向きから見て、形や色などに着目して表したいことを考えている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことなどを友人と伝え合い、さらに発想や構想をする。 		 <p>出っ張った四角い形に着目し、それをトナカイの鼻に見立てて赤い色を付けている。さらに、その上の丸みのある部分の形を生かして目をかき足し、トナカイを表し始めている。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 表し方を工夫して表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 思 ◎ (発想や構想) 観察 対話 作品 技 ◎ 観察 対話 作品 	<ul style="list-style-type: none"> 「思考・判断・表現 (発想や構想)」の視点で、表したいことを見付けどのように表すか考えている様子を、観察する、問いかける、作品を見るなどして学習状況を把握し、記録に残した。
			<p style="text-align: center;">【10の視点】②体験的な学習の充実</p> <p style="text-align: center;">子どもが自ら学びを深めていくことができるように、指導者が活動における子どもの具体的な姿をイメージして「環境設定・時間設定・適切な声かけ」等の手立てを工夫します。</p>
			 <p>紙の形や色を基にしったり表したことから思い付いたりしながら、かき進めている。</p>
			 <p>クレヨンを横にして赤い鼻の部分塗ったり、強い筆圧で黄色や茶色の部分をかいたり、クレヨンで塗った後から指でこすって青い部分をぼかしたりして、塗り分けている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 態 ◎ 観察 対話 作品 	<ul style="list-style-type: none"> これまで捉えてきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を踏まえて、記録に残した。

<本事例における「思考・判断・表現 (発想や構想)」の評価について>

箱の折れ目で区切られた部分から、表したいことを見付ける。	紙の全体の形から、表したいことを見付ける。	紙の一部の形から、表したいことを見付ける。
(製作された作品)	(製作された作品)	(製作された作品)
		
「カラフルふしぎな町」	「スーパーねこ」	「ロボットトナカイ」

表したいことを見付けるきっかけの傾向を事前に想定しておくことで、適切な指導や評価につなげます。



中学校 美術

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・美術は何を学ぶ教科なのかということを示した。
- ・感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視した。
- ・育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

②美術科の目標を三つの柱で整理

(1)「知識及び技能」	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点を豊かにするために必要な知識 ・表現における創造的に表す技能
(2)「思考力、判断力、表現力等」	<ul style="list-style-type: none"> ・表現における発想や構想 ・鑑賞における見方や感じ方 など
(3)「学びに向かう力、人間性等」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操 など

※(1)(2)(3)を相互に関連させながら、資質・能力を育成することが重要

③美術科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めること など ・感性や造形感覚を働かせて、材料や用具を生かし、表現方法を工夫して創造的に表すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること など ・感性や想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、味わうこと など 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・美術の創造活動の喜び ・美術の創造活動に主体的に取り組む態度 ・美術を愛好する心情 ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 ・美術文化の継承と創造への関心 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
- ◇生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

②見方・考え方について

◇美術科における「造形的な見方・考え方」

- ・美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すこと。

深い学びの鍵となるのが「見方・考え方」です。



造形的な視点とは＝「造形を豊かに捉える多様な視点」	
対象などの形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点 → 木を見る視点	対象などの全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点 → 森を見る視点

◇〔共通事項〕を「造形的な視点」を豊かにするために必要な知識として整理

〔共通事項〕	(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導する	ア 形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解	知識
		イ 全体のイメージや作風などで捉えることの理解	

③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇指導計画作成上の配慮事項

- ・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。

「主体的な学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感させ、目的意識を高める。 ※「A表現」(1)において、「ア感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付けた。
「対話的な学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己との対話を深めることや、〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動の充実を図る。 ※授業改善や、より「思考力・判断力・表現力等」を育成する観点から、言語活動を「B鑑賞」はもとより、「A表現」においても充実させる。
「深い学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を十分に図り、学習の効果が高まるように指導計画を工夫する。 ・〔共通事項〕ア、イが、表現及び鑑賞の活動の中で造形的な視点として豊かに働くようにどの場面でもどのように指導するのかを明確に位置付け、生徒が形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて学習に取り組むことができるようにする。

④移行措置について

◇平成30年度から平成32年度までの第1学年から第3学年までの美術の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第6節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第6節の規定によることができる。

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領に示された美術科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」は作成されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

② 学習指導要領の「2 内容」と「内容のまとめりごとの評価規準」との関係

◇美術科における内容のまとめり

「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕」
 「目的や機能などを考えた表現「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕」
 「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」、〔共通事項〕」

<例 第1学年「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」※「A表現」(1)ア(2)及び〔共通事項〕>

学習指導要領の「2 内容」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	〔共通事項〕(1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを 理解すること 。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを 理解すること 。 「A表現」(2) ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して 表すこと 。 (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって 表すこと 。	「A表現」(1) ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する 構想を練ること 。	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、 <u>該当学年の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。</u>

「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものです。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「知識」については、具体的には〔共通事項〕の内容を、「技能」については、具体的には「A表現」(2)の内容を示している。 文末を「知識」は「～理解している」、「技能」は「～表している」と示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的には「A表現」(1)及び「B鑑賞」の内容を示している。 ここでは、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」の内容のまとめりを例にしているため、「A表現」(1)ア(ア)について文末を、「～している」と示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしていたり、発揮しようとしていたりすることへ向かう態度を評価する。 当該学年の評価の観点及びその趣旨と「A表現」の「内容のまとめり」に応じて評価規準を作成する。

「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「内容のまとめりごとの評価規準」と呼びます。

内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、学習評価を行う際の評価規準を作成し、学習評価を授業改善につなげます。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

- ◇独立した鑑賞の活動の事例である。この事例における知識は、日本と西洋の美術作品の陰影や背景などの表現の特徴、それぞれの違いや余白や空間の効果などに注目してそれらの働きを捉えたり、日本と西洋の美術作品の表現の特徴や違いなどを全体に着目してイメージや作風で捉えたりできるようになるなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的な理解の実現状況を評価することが大切である。
- ◇ワークシート等を活用する場合は、授業を円滑に進め、生徒の見方や感じ方が深まるように題材の目標や評価規準との関連を十分考慮して作成することが大切である。

(1) 題材名「発見！日本の美～日本美術のよさや特徴について語り合おう～」(第3学年) ※内容のまとめり 第3学年「作品や美術文化などの鑑賞」

(「B鑑賞」(1)ア(ア)イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ)

<題材の概要>

〔共通事項〕に示された造形的な視点を豊かにするための「知識」を活用して、日本の美術作品の表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取るとともに、西洋の美術作品と比較し、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深める。

<主な鑑賞作品>

- 1時間目：長谷川等伯「松林図屏風」、メインデルト・ホッペマ「ミッデルハルニスの並木道」
- 2時間目：長谷川等伯「松林図屏風」、尾形光琳「燕子花図屏風」、歌川広重「名所江戸百景亀戸梅屋敷」、「洛中洛外図屏風」(上杉本)

(2) 題材の目標

- 「知識及び技能」に関する題材の目標
 - ・余白や空間の効果，立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
 - ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1))
- 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
 - ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

(3) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 日本美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

(4) 指導と評価の計画 (2時間)

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
<p>1. 鑑賞 (1時間)</p> <p>●日本と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。</p> <p>・「松林図屏風」と「ミッデルハルニスの並木道」を比較鑑賞し、余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。</p> <p>・作品の表現の特質から感じ取ったことや考えたことなどをワークシート(問1)に記述する。</p> <p>・両作品の表現のよさや工夫についてグループで話し合い、クラス全体に発表する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>知 [共通事項] の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、奥行きを表し方に着目させるなどの指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。 【発言の内容、ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して、それぞれの作品の季節や時間、天候などを考えさせる。【ワークシート、活動の様子】</p> </div>
<p>2. 鑑賞 (1時間)</p> <p>●日本の複数の美術作品を比較鑑賞し、美術文化について考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>・「松林図屏風」、「燕子花図屏風」、「名所江戸百景亀戸梅屋敷」、「洛中洛外図屏風」を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点等に気付いたことをワークシート(問2)に記入し、グループで話し合い、クラス全体に発表する。</p> <p>・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、作品のよさや美しさ、美術文化などについてワークシート(問3)にまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>【10の視点】</p> <p>⑥学び合う活動の充実 ⑤説明・発表の機会の充実</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>自分の価値意識をもって批評し合う等の活動の充実を図るとともに、より多くの(他者)考えにふれる機会を設定し、自分一人では気付くことのできない多様な見方や感じ方を深められるよう、鑑賞の学習活動を工夫します。</p> </div>			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>知 [共通事項] の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、構図や余白、作風に着目させるなどの指導を行う。 【発言の内容、ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>鑑 態鑑 それぞれの美術作品の表現の特質などから相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫について考えているかどうかなどと、主体的に鑑賞をしているかなどを見取る。できていない生徒に対して再度、西洋の美術作品と比較鑑賞させ、日本の美術作品の特徴などに気付かせる。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞し、余白や空間の効果や作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と工夫や美術文化などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。 【ワークシート、活動の様子】</p> </div>
<p><授業外：題材が終了後></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【10の視点】⑦学習評価の推進</p> <p>学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことや、観点別の学習状況について評価する時期や場面を精選することが重要です。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>知 ワークシートの記述などから、余白や空間の効果、立体感や遠近感の理解や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>鑑 日本の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> </div>

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、以下の通りである。

- は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。
- は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」(授業内での評価を再確認するための評価も含む)を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。
- は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。
- **ゴシック体**は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。
- **【 】** は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

＜本題材のワークシート例＞

発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

() 組 () 番 ()

問1 二つの作品を比べて、奥行きや空間の表し方に着目して、それぞれの作品の特徴とそこから感じたことを書きましょう。

	作品の表し方の特徴	作品の特徴から感じたこと
「松林図屏風」	<ul style="list-style-type: none"> ・白黒で描かれている。黒の濃い薄いで遠近感を出している。 ・松しか描かれていないし、何も描かれていないところが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒の表現や何も描いていない部分があって全体的に寂しい感じがする。 ・この場所の雰囲気を感じる。霧がかかっている感じがする。
「ミッデルハルニスの並木道」	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くに行くほど、描かれているものが小さくなっている。 ・作者の見ていた風景をとて忠実に描いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠近感がすごい。ずっと道が遠くまで続いているように感じる。 ・木に光が当たっているところが描かれていて本物の木のように思った。

問2 四つの作品のうち二つ以上の作品を選び、それぞれを比較して表現の特徴や工夫から感じたことを書きましょう。

	表現の特徴や工夫	作品を比較して感じたこと
「亀井戸梅屋敷」	<ul style="list-style-type: none"> ・手前の梅の木がものすごく大きく描かれていて、大胆な画面構成になっている。 ・使われている色が赤と緑だからとても目立つし、強調されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、鑑賞した亀井戸梅屋敷と燕子花図屏風は、木版画と屏風の違いや、描き方、画面の構成の仕方は違うけれど、どちらも自然や当時の身近な生活をテーマにしていたり、その時代によって独自の表現方法を大切にしたりしているところは同じだと思いました。
「燕子花図屏風」	<ul style="list-style-type: none"> ・金色の背景がとても豪華な感じがする。 ・燕子花の形や色を単純化して表現していて全体にシンプルでデザインみたい。 	

問3 日本の美術作品のよさや美しさ、美術文化について考えたことを書きましょう。

・鑑賞した西洋の作品は、ありのままの風景をそのまま切り取ったように描かれていたが、日本の作品は描きたいものを強調し、見ている人にいろいろな想像をさせるために、背景にあえて何も描かなかったり、金色一色にしたりする独自の表現がすごいと思った。また、自然とともに生きることを大切にしたい表現に日本の美の心を感じた。これからも自分の生活の中で美術を探して楽しんでみたい。

○本事例のワークシートの設問では、第一次に記述させる問1及び第二次に記述させる問2を「知識」の評価規準との関連を図って設定し、特に下線部（ワークシート例参照）の「奥行きや空間の表し方」や「それぞれの作品の特徴」、「表現の特徴や工夫」を中心に生徒の学習状況を見取るように設定している。

本題材の指導事項である第2学年及び第3学年の「B鑑賞」(1)イ(イ)の美術文化についての見方や感じ方を深める学習は、幅広い内容でもあるため、いくつかの題材を設定して段階を追って見方や感じ方を深められるようにすることが望まれます。その際、評価においても、年間指導計画の中で関連する題材を考え、どのように評価や総括を行うのかを考えておく必要があります。

